【雑学】相州自由民権の里・厚木市荻野を訪ねて

荻野は昭和 31 年（1956）厚木市に編入されるまで神奈川県愛甲郡荻野村であった。また明治の一時期、多くの自由民権活動家を輩出している所である。

そこには明治維新まで下荻野に陣屋を構える譜代の荻野山中藩があった。石高 1 万 3 千石、幕末の藩主は大久保教義で小田原藩の支藩である。荻野山中藩が世間に知られる所となったのは慶応 3 年 12 月 15 日、薩摩藩浪士を中心とする一団に陣屋の焼き討ちにあった事である。同年 10 月 4 日、徳川慶喜は大政奉還をしたが、薩摩藩は倒幕の戦端を開く切掛けを作るため、関東で騒乱を起こす計画を実行した。その計画とは(1)下野国(現栃木県)都賀郡出流山の挙兵、(2)甲斐国（現山梨県）甲府城攻撃、(3)荻野山中陣屋襲撃の三事件である。下野国、甲斐国の襲撃は事前に行動が漏れ失敗したが山中陣屋の襲撃は行動が漏れず成功し陣屋は焼失した。襲撃隊は三十数名で陣屋の長屋等に放火、金子、武器諸道具を略奪する。後々自由民権で活躍する天野政立（藩医天野俊長の次男）は十四歳でこの事件に遭遇している（1)。

（1）平本元一（厚木市史編集員会委員）厚木の大名〈NO35〉荻野山中陣屋焼討事件

現在のこの地は山中藩陣屋跡公園となり、藤棚、ベンチ、トイレ、東屋等が整備されている。しかし山中藩の本拠である石碑や説明柱(荻野稲荷神社前)が有るのみで陣屋の面影はほとんど無い。まず荻野山中藩陣屋焼討ち事件を取り上げた理由は、襲撃に加わった方の石井道三、山川市郎や襲撃された側の藩医の子息・天野政立が、後々共に相州自由民権運動に加わり活躍することになる人たちの交差点と思われるためである。

今回の荻野を訪ねる主目的は、自由民権の里としての荻野である。現在の厚木市は人口 21 万人の中都市として東京工芸大学、神奈川工科大学、東京農業大学、松蔭大学が市内に点在し小田急本厚木駅前は若者の街の感がある。本厚木駅北口より半原・上荻野方面行きバスに乗り 30 分程で津久井道「久保」（上荻野）で下車する。「久保」より「荻野新宿」（下荻野）（津久井道と大山道の交差点）まで、地元の土屋さん（町田自由民権カレッジ二期生・同期）の案内で中身の濃い自由民権の歴史を尋ね歩くことになる。

《神崎邸》バス停「久保」より数分の所に相愛社社長であった神崎正蔵のお孫さん宅がある（邸宅の場所は明治と同じ場所である）正蔵は明治 15 年 2 月の相愛社の結成には幹事として参加するが 18 年の大阪事件頃より実業の世界に転じた。特に養蚕飼育に熱心で自宅敷地内には養蚕試験室や養蚕伝習所を設けるほどであった

神崎家の保有する版画の原版（銅版）を拝見した。上の版画は土屋さんが原版をお借りし町田版画美術館で印刷したとのこと綺麗に仕上がっている。余談だか御当主が語るに隣の岸邸に民権家が訪韓資金を得るために押し込み強盗を働いた際に手引をしたと疑われ、神崎家と岸家とは数代に渡って交流が無かったそうである。現在隣の岸邸は厚木市古民家岸邸として公開されている。

《岸邸》神崎邸のお隣にあり、瓦葺寄棟造、木造、二階建て、部屋は全部で十五室あり、建築面積は約 120 坪（建立年代：明治 24 年（1891）5 月上棟）、平成 11 年 7 月 22 日に厚木市指定有形文化財に指定されている。この建物の特徴は次の三点が挙げられている。

一．使用されている木材の質が極めて高く、仕上げも入念である。

一．各部の意匠は通り一遍でなく、十分な手間がかけられ、随所に凝った意匠を展開している。

一．近世以来の伝統的な農家の間取りである六間取を基本にしながら、本格的な二階座敷を持ち、しかもこの時期には珍しかったであろう瓦葺とするなど、時代の転換期の先端的な様式を併せ持っている。

入館料は無料であるが、時期により開館時間が異なるので注意のこと。

岸邸に別れを告げ、今日も猛暑の中、412 号（津久井道）を南下する。荻野山中藩・藩校の興譲館の流れを汲む荻野小学校（土屋さんの母校）に到着する。米沢藩に同名の藩校・興譲館があるが、山形県立米沢興譲館高校となっており、小学校の前身が藩校であるのは

全国でも珍しいのでは？

右の図は、当日散策した久保より荻野新宿までを示す。荻野小学校、荻野神社を通り、旧道に入る。

《戒善寺》厚木市中荻野 748

日蓮宗の寺院で、境内には「自由民権の里」石碑と天野政立が戒善寺で演説した一節が石柱に刻まれている。

当時、神奈川の政治の中心は愛甲郡であり、
愛甲郡の政治の中心は荻野村であった。
（明治三十二年戒善寺における天野政立演説より）

旧道の交差点に「うとう坂」というところがある。村の頃、ここを通る時、寂しい場所なので、大声で歌いながら通った処から名付けられた。

公所（くじょ）に着くと 412 号は厚木市街に向けて旧道とバイパスに分かれる。土屋さんとご一緒にガイドを務めていただいた女性の計らいで、「公所海道」を少し過ぎたところにある養徳寺（臨済宗円覚寺派・厚木市中荻野 1635）の庫裏にて茶菓子や梨をいただいて昼食タイムとなった。養徳寺の墓所方面より荻野川の向側には、間近に厚木国際 CC の何番目かのやたらにバンカーの多いホールとその奥に大山が望める。

厚木国際 CC のホールと大山を望む

お世話になった養徳寺

《山中陣屋跡史跡公園》厚木市下荻野 262

公園は 412 号バイパスのほぼ近くにある。陣屋の跡なので小高い場所にあり、荻野川が堀の役目を果たしたのではと考えられる。東屋・水洗トイレも完備し静かな場所である。

史跡公園の脇には冷たい湧き水があった。

《法界寺》厚木市下荻野 1396

浄土宗の寺院で、荻野新宿交差点より程近い場所にある。荻野新宿は津久井道と大山道の交差するところで江戸時代より街道は大山詣でにぎわっている所であった。明治 16 年 1 月 10 日、講学会設立準備会が開催されている。講学会の勉強会が頻繁に開催され愛甲郡における自由党員の学習塾の様相を呈していた。勉強会が終了すると近くの宿（辰巳屋など）で懇親会などが開かれていた。また法界寺は愛甲郡の二つの学校の発祥の地であり、その学校とは後の愛甲郡立実業補修学校と女子補修学校であった。

《辰巳屋》

荻野新宿交差点、大山道に面して旅籠「辰巳屋」があった。「松坂屋」と共に愛甲郡民権家たちの集会場として利用され、主人（難波清太郎）自身、自由党への資金カンパに協力、自由党の賛成員であった。上の岡持ちは集会場への弁当運び用であったそうだ。岡持のふたには自由党の字が誇らしく書かれている。現在の御当主はサラリーマン OB で、幼少の頃はまだ旅籠の本館があったそうである。

まだ土屋さんには何箇所か寄って説明を受けたと思うが、暑さの中で記憶も記録も不十分であったことを陳謝する次第である。荻野新宿交差点の「華屋与平」にて 9 名で反省会を催す。体が水分を要求し「大生」を頼んだが、あっという間に胃の中に消えてしまった。

荻野新宿交差点（津久井道と大山道）

荻野新宿交差点の大山道を 500mほど進んだところに神奈川工科大学がある。そこで学ぶ若者たちは荻野を通過するだけの人達なのであろうか。

執筆：小林尚道